



Title	上蘭恒太郎 [略歴・著書目録]
Author(s)	
Citation	長崎大学教育学部紀要：教育科学, 78, pp.1-8; 2014
Issue Date	2014-03-01
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10069/34461">http://hdl.handle.net/10069/34461</a>
Right	

This document is downloaded at: 2020-10-27T21:14:11Z

# 上 蘭 恒 太 郎

## 1 略 歴

- 昭和 23 年 5 月 鹿児島県に生まれる
- 昭和 42 年 3 月 私立ラ・サール高等学校卒業
- 昭和 42 年 4 月 九州大学教育学部入学
- 昭和 47 年 3 月 九州大学教育学部卒業
- 昭和 47 年 4 月 九州大学大学院教育学研究科修士課程入学
- 昭和 50 年 3 月 九州大学大学院教育学研究科修士課程修了（教育学修士）
- 昭和 50 年 4 月 九州大学大学院教育学研究科博士課程入学
- 昭和 54 年 3 月 九州大学大学院教育学研究科博士課程単位取得満期退学
- 昭和 54 年 4 月 九州大学教育学部助手（教育哲学）（昭和 56 年 3 月まで）
- 昭和 55 年 11 月 福岡教育大学非常勤講師（昭和 56 年 9 月まで）
- 昭和 57 年 4 月 長崎大学講師教育学部（教育学）
- 昭和 60 年 10 月 ボン大学客員講師（兼任、昭和 61 年 10 月まで）
- 昭和 62 年 8 月 長崎大学助教授教育学部（教育学）
- 平成 5 年 10 月 長崎大学教授教育学部（教育学）（平成 26 年 3 月まで）
- 平成 10 年 2 月 ライプチヒ大学客員教授（兼任、平成 10 年 11 月まで）
- 平成 16 年 4 月 長崎大学学長補佐（兼任、平成 17 年 3 月まで）
- 平成 17 年 4 月 長崎大学副学長（兼任、平成 18 年 3 月まで）
- 平成 19 年 8 月 ロンドン大学教育研究所客員研究員（兼任、平成 20 年 2 月まで）

## 2 学会及び社会における活動等

- 昭和 48 年 5 月 九州教育学会会員（現在に至る、平成 9 年から 4 年間理事、平成 15 年から 4 年間理事、平成 24 年から理事）
- 昭和 51 年 10 月 教育哲学会会員（現在に至る）
- 昭和 62 年 1 月 日本教育学会会員（現在に至る）
- 平成 4 年 4 月 長崎県道徳的実践活動推進会議（前：長崎県学校道徳教育振興会議）委員（平成 20 年まで）
- 平成 4 年 5 月 日本道徳教育学会会員（現在に至る、平成 18 年から評議員）
- 平成 7 年 12 月 日本道徳教育方法学会会員（平成 8 年から理事、平成 19 年から副会長（平成 25 年まで）、平成 22 年から国際委員会委員長（兼任）、現在に至る）
- 平成 15 年 8 月 I-know 03 & 04 プログラム委員会委員（平成 16 年度まで）
- 平成 16 年 7 月 文部科学省「心のノート」改善協力会議委員（平成 17 年 3 月まで）
- 平成 16 年 11 月 Association for Moral Education (AME) 会員（現在に至る）
- 平成 18 年 10 月 Asia-Pacific Network for Moral Education (APNME) 会員（現在に至る、平成 20 年から平成 23 年まで理事）
- 平成 24 年 4 月 長崎大学生協同組合理事長、現在に至る
- 平成 22 年 8 月 博士（教育学）取得（九州大学）

### 3 著 書

1. 現代離島教育の構造と展開—長崎県上五島地区を中心として—、共著、1990年、長崎大学教育学部発行
2. 教育原理、共著、1990年、コレール社
3. 道徳教育、共著、1990年、コレール社
4. 水際の教育と生活科—地域教材の開発と実践—、共著、1990年、大日本図書
5. 民話による道徳授業論、単著、1992年、北大路書房
6. 長崎ピース・トレイル 日本語・英語・中国語・韓国（朝鮮）語で案内する長崎、共著、1995年、海鳥社
7. 道徳教育の基礎と展開、共著、1998年、コレール社
8. 新世紀・道徳教育の創造、共著、2002年、東信堂
9. 子どもの在り方生き方を支える新しい道徳資料集九州パイロット版、共著、2003年、教育出版
10. 連想法による道徳授業評価 —教育臨床の技法—、単著、2011年、教育出版

### 4 論 文

1. ヘルバルトの『美的表現』におけるリアリスティックな観点について、単著、1975年、九州教育学会研究紀要第3巻、1-8
2. 教育現象学の創始者＝ヘルバルト論—D.Benner, W.Schmied-Kowarzik 論文を中心に—、単著、1977年、九州教育学会研究紀要、第5巻、1-8
3. 教育学における価値判断の根拠—ヘルバルト教育学の形成過程をめぐって—、単著、1978年、九州教育学会研究紀要第6巻、17-24
4. カントからヘルバルトへ—「学問としての教育学」の成立過程・序説—、単著、1979年、九州教育学会研究紀要第7巻、41-48
5. 単独者としての「私」における「他者」についての教育学的考察、単著、1981年、九州大学教育学部紀要第26巻、1-13
6. J.F. ヘルバルトにおける視点の形成、単著、1983年、長崎大学教育学部教育科学研究報告第30号、71-84
7. 18世紀末ドイツにおける教育学の学問性、単著、1984年、長崎大学教育学部教育科学研究報告第31号、33-43
8. J.Chr. グライリングによる教育学の構想、単著、1985、長崎大学教育学部人文科学研究報告第34号、69-76
9. カント主義者、J.Chr. グライリングの教育目的論、単著、1985、長崎大学教育学部教育科学研究報告第32号、25-40
10. 物語と教訓—「赤ずきん」、「一ぼんばしのやぎ」—、単著、1988、長崎大学教育学部教育科学研究報告第35号、59-77
11. 物語とメッセージ—「三びきやぎのがらがらどん」—、単著、1988、長崎大学教育学部社会科学論叢第37号、77-84
12. 価値判断を整理する、単著、1989年、長崎大学教育学部教育科学研究報告第37号、9-19

13. 道徳的価値—資料、子ども、の構造からみた道徳資料—、1991、長崎大学教育学部教育科学研究報告第40号、11-22
14. 民話の多様性をいかに道徳資料、単著、1991、長崎大学教育学部教育科学研究報告第40号、23-28
15. 道徳授業の導入と民話資料、単著、1991、長崎大学教育学部教育科学研究報告第41号、1-12
16. 子どもの意識における死の擬人化、単著、1992、長崎大学教育学部教育科学研究報告第43号、1-15
17. 生涯教育の視点を生かす道徳教育、単著、1992、道徳と教育 No.277・278、40-44
18. 子どもの死の意識における感情表出年齢と道徳教育、単著、1993、長崎大学教育学部教育科学研究報告第45号、11-25
19. 死に関する子どもの意識の日米比較・序説—長崎での調査とクーハーの調査—、単著、1993年、長崎大学教育学部教育科学研究報告第45号、27-39
20. 子どもの死の判断における年齢ごとのカテゴリの類似性、単著、1994、長崎大学教育学部教育科学研究報告第47号、1-13
21. 死の判断における「常識」、単著、1995、長崎大学教育学部教育科学研究報告第48号、41-56
22. 道徳における評価、単著、1995年、道徳と教育 No.286、287、84-91
23. 死について子どもたちは誰に聞くか—日本とドイツでの調査研究—、単著、1995、長崎大学教育学部教育科学研究報告第49号、17-25
24. 子どもにとっての美しい死—ドイツとの比較を含む長崎の子ども死の意識研究—、単著、1996年、長崎大学教育学部教育科学研究報告第50号、31-46
25. 子どもの死の意識と経験—長崎を中心とした調査研究—、単著、1996、長崎大学教育学部教育科学研究報告第51号、15-25
26. 小・中学生の道徳性を育てる学校外教育に関する研究—日・独比較—、共著、1996、伊藤忠記念財団平成6年度調査研究報告、75-129
27. 子どもの死の意識といのちの教育、単著、1997年、教育学研究 第64巻第1号、19-23
28. 「死」について回答した言葉と連想語、単著、1997、長崎大学教育学部教育科学研究報告第52号、15-24
29. 連想による都市イメージの表現、共著、1997、電子情報通信学会技術研究報告（教育工学）ET96-128、111-118
30. 連想調査による〈生命〉と関連語の分析—石垣市との比較を含む長崎市の小学校4年生から中学校3年生—、共著、1997、長崎大学教育学部教育科学研究報告第53号、15-31
31. 連想調査による道徳授業評価、単著、1997、道徳と教育 No.294・295、47-59
32. 連想調査による反応語の意味ネットワーク表現、共著、1997、電子情報通信学会技術研究報告 ET97-35、1-7
33. 高度情報社会における道徳教育への手がかり、単著、1997年、道徳と教育 No.296・297、284-298
34. 連想調査でおこなう道徳授業評価の実例、共著、1997年、道徳教育方法研究第3号、

66-81

35. 標本サイズの変化に対する連想における諸量の挙動、共著、1997、電子情報通信学会技術研究報告 ET97-99、137-142
36. 連想調査による情意測定の試み—子どもたちが感じた学校—、共著、1998、長崎大学教育学部教育科学研究報告第 54 号、27-41
37. 石垣市の子どもに関する死の意識調査研究—死についての判断の型、経験を中心に—、単著、1999、長崎大学教育学部紀要—教育科学—57 号、1-14
38. 石垣の子どもの死・不死の判断理由についての調査研究、単著、2000、長崎大学教育学部紀要—教育科学—58 号、17-28
39. 郷土を見つめる道徳遠隔授業の意義、共著、2000、附属教育実践研究指導センター紀要第 2 号、46-68
40. 2 画面を利用した小学校道徳における遠隔授業の実践と評価、共著、2000、附属教育実践研究指導センター紀要第 2 号、33-45
41. 郷土を見つめる道徳遠隔授業、共著、2000、道徳教育方法研究第 6 号、11-20
42. グループ・エンカウンターとつなげた道徳授業、共著、2001、長崎大学教育学部紀要—教育科学—60 号、9-20
43. 死とは何かに関する石垣の子どもの調査研究、単著、2001、長崎大学教育学部紀要—教育科学—61 号、1-15
44. 障害のある子供たちへの連想の適用について、共著、2001、電子情報通信学会技術研究報告 ET2001-12、65-82
45. 「謎かけ」と連想の関係について、共著、2001、電子情報通信学会技術研究報告（教育工学）、ET2001-66、7-12
46. 生涯学習を支える二つの文脈、単著、2002、長崎大学生涯学習叢書 1、地域と向き合う大学を考える、長崎大学、51-62
47. 連想調査によるドイツ、マレーシア、日本の死の意識比較—オスナブリュック、ペナン、長崎における大学生の調査研究—、単著、2002、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第 63 号、1-14
48. 「学校臨床教育学」構想への手がかり—教育学とスクールカウンセラーの立場から—、単著、2002、九州教育学会研究紀要第 29 巻、4-9
49. 多地点接続による道徳遠隔授業の意義と計画、共著、2002、長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要 第 1 号、47-70
50. 情報通信ネットワークを活用した「道徳の時間」改善のポイント、単著、2002、教育研修 10 月増刊号 新教育課程下の学校経営戦略第 3 巻 豊かな心への経営戦略、教育開発研究所、92-95
51. いじめに関するドイツ、マレーシア、日本の意識比較研究 —連想調査によるオスナブリュック、ペナン、長崎の大学生の調査—、単著、2003、長崎大学教育学部紀要教育科学第 64 号、13-27
52. 多地点接続による道徳授業、共著、2003、道徳教育方法研究第 8 号、11-20
53. 学校に関するドイツ、マレーシア、日本の意識比較研究—連想調査によるオスナブリュック、ペナン、長崎の調査—、単著、2003、長崎大学教育学部紀要教育科学第 65

- 号、13-27
54. Zur Herbart-Rezeption in Japan、単著、2004、Theodor-Litt-Jahrbuch 2003/3、(Leipziger Universitaetsverlag、145-160
  55. ギガビットネットワークを利用した DVTS による日韓遠隔交流・学習、共著、2004、長崎大学総合情報処理センター センターレポート 第 22 号、14-23
  56. Providing Distance Learning over an Information Network、単著、2004、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第 66 号、9-14
  57. Consciousness of “evolution” and “human gene” in German high school students、単著、2004、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第 66 号、15-24
  58. 連想法を用いた情意ベクトルによる授業評価、共著、2004、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第 67 号、1-11
  59. A proposal of the new quantities for the association as a measure and their behavior as a function of sample size、共著、2004、The 8th World Multi-Conference on Systemics, Cybernetics and Informatics, SCI 2004. Proc. Vol. VII、414-419
  60. A Comparative Analysis of Changes of Student's Attitude between Before and After an International Distance Class、共著、2004、Proceedings IEEE International Conference on Advanced Learning Technologies (ICALT)、7-11
  61. 日韓遠隔授業における中学生の国際性の変容に関する一分析、共著、2004、日本教育工学会論文誌 28、(Suppl.) 197-200
  62. 高精細動画伝送システムを用いた日韓遠隔交流・授業の実践 (A Practice of Distance Exchange and Classes between Japan and South Korea using DVTS)、共著、2004、日本教育工学会第 20 回全国大会講演論文集 (Proceedings of the 20th Annual Conference of Japan Society for Educational Technology)、827-828
  63. 国際遠隔授業における教師—生徒間の発言時間に関する考察、共著、2005、日本教育工学会研究会報告集 JSET05-1、7-13
  64. 高精密動画を用いた多地点接続による中学校間日韓遠隔授業の実践と評価、共著、2005、日本教育工学会論文誌 29(3)、395-404
  65. ヒトゲノム研究と学校教育—知識に基づく道徳上の判断を育成するために—、単著、2005、道徳教育方法研究第 10 号、20-29
  66. 長崎とドイツの高校生のヒトゲノムに関する意識比較、単著、2005、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第 68 号、1-10
  67. 刺激語〈死ぬ〉から連想する言葉の経過時間による変化、単著、2005、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第 69 号、1-10
  68. On the Association Entropy as a Function of Time、共著、2005、The 9th World Multi-Conference on Systemics, Cybernetics and Informatics, WMSCI, Proc. Vol. IX、196-201
  69. 子どもの死の意識、単著、2005、こころ育て第 1 号、特集：子どもと死を考える、教育出版、12-23
  70. Construction of a System that improves Motivation in Distance Learning -Two Types of Association Tests Reveal Motivation and Change of Pupils-、共著、2005、

- IADIS (International Association for Development of the Information Society )、424-428
71. いのちへの思いを育てる道徳遠隔授業—テレビ付き携帯電話で死を話合う小学校中学年の授業—、共著、2006、長崎大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 第5号、81-102
  72. 数量化Ⅲ類を用いた連想調査データ分析の試み：遠隔授業における学習者変容の可視化、共著、2006、長崎大学教育学部附属教育実践総合センター紀要 第5号、163-170
  73. 学校蘇生のためのスクールリーダーの役割、単著、2006、九州教育学会研究紀要第33巻、9-14
  74. いのちへの思いを育てる道徳遠隔授業—テレビ付き携帯電話でつないで—、共著、2007、道徳教育方法研究第12号、19-28
  75. いのちに対する丁寧さを育てる交流学习体系の研究、共著、2007、道徳教育方法研究第12号、59-68
  76. 自尊感覚を育成する教育を、単著、2008、もやい 長崎人権・学、2-4
  77. Reticence towards Moral Lessons in Japanese Schools -Moral education at a crossroad-、単著、2008、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第72号、1-12
  78. 地域・学校・教科をつないで進める道徳教育、単著、2008、教育展望 第54巻第5号、4-10
  79. 異学年合同道徳授業の意義—地域素材でおこなう命の道徳授業—、共著、2009、長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要第8号、55-63
  80. 異学年合同道徳授業の計画と反響—小学校6年生の地域素材学習と結んだ1年生・6年生の命の授業—、共著、2009、長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要第8号、209-219
  81. Death Consciousness in Germany, China and Japan by Association Method、単著、2009、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第73号、1-16
  82. Comparison of Consciousness on Cultural Themes Assessment by association method、共著、2010、長崎大学教育学部紀要—教科教育学—第50号、97-107
  83. 学習集団アセスメントを基盤にしたグループ体験活動の試み—Q-Uと連想法、疎外感アンケートの活用と対応—、共著、2010、教育実践総合センター紀要第9号、149-158
  84. 「説明する力」を向上させるための高校世界史の授業実践—シンキング・ツールの有効的活用を目的として—、共著、2010、教育実践総合センター紀要第9号、185-195
  85. 異学年合同・地域素材でおこなう いのちの道徳授業—臨床道徳授業のために—、共著、2010、道徳教育方法研究第15号、1-11
  86. 映画「ブタがいた教室」を生月島の観客はどう受け止めたか—連想法による意識評価—、単著、2011、長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要第10号、9-25
  87. Comparison of Consciousness by Language Choice A pilot study by association method、共著、2011、長崎大学教育学部紀要—人文科学—No.77、37-44
  88. 映画「ブタがいた教室」による観客の意識変容、単著、2011、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第75号、1-9
  89. 子どもが学び合う道徳授業への転換—自分の生き方を見つめて—、共著、2011、道徳

教育方法研究第 16 号、54-64

90. グローバル化と国際共同道徳学習案の意義 —台湾と日本のいのちの支え合い—、共著、2012、長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要第 11 号、83-97
91. Assessment by Association Method of a Moral Education Lesson on a Local Topic in a Mixed-age Class、共著、2012、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第 76 号、1-16
92. 民話による道徳授業、共著、2012、道徳と教育 No.330、95-106
93. 台湾の 3 小学校における日本の道徳授業 —連想法による授業分析—、共著、2013、長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要第 12 号、61-70
94. 自己肯定感を育てる道徳授業 —協同で学ぶ思いやり—、共著、2013、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第 77 号、1-18。また、2013、九州地区国立大学教育系・文系研究論文集 1 巻 1 号、ページ No.10 に再掲
95. グループを活用した 1 単位時間の自己肯定感の変容 —連想法による授業評価—、共著、2013、協同と教育第 9 号、27-36
96. Defining a human being: a starting point for the science of education、単著、2014、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第 78 号、9-17
97. 平和の定義 —平和責任：被害、加害責任、そして記憶の文化—、単著、2014、長崎大学教育学部紀要—教育科学—第 78 号、19-27
98. 日本と台湾の共通道徳授業の意義と学習案、共著、2014、長崎大学教育学部教育実践総合センター紀要第 13 号、61-70 & 355-364

## 5 その他著書

1. 中学校道徳 心つないで Heart to Heart、1、共著、2001、教育出版
2. 中学校道徳 心つないで Heart to Heart、2、共著、2001、教育出版
3. 中学校道徳 心つないで Heart to Heart、3、共著、2001、教育出版
4. 心を育てる道徳教材集、共著、2005、長崎県教育委員会
5. 中学校道徳 心つないで Heart to Heart、1、共著、2005、教育出版
6. 中学校道徳 心つないで Heart to Heart、2、共著、2005、教育出版
7. 中学校道徳 心つないで Heart to Heart、3、共著、2005、教育出版
8. こころのノート（小学校 1・2 年）、共著、2005、文部科学省
9. 心のノート（小学校 3・4 年）、共著、2006、文部科学省
10. 心のノート（小学校 5・6 年）、共著、2006、文部科学省
11. しょうがく どうとく こころ つないで 1、共著、2011、教育出版
12. 小学 どうとく こころ つないで 2、共著、2011、教育出版
13. 小学 どうとく 心つないで 3 Heart to Heart、共著、2011、教育出版
14. 小学 どうとく 心つないで 4 Heart to Heart、共著、2011、教育出版
15. 小学 どうとく 心つないで 5 Heart to Heart、共著、2011、教育出版
16. 小学 道徳 心つないで 6 Heart to Heart、共著、2011、教育出版
17. しょうがく どうとく こころ つないで 1、共著、2014、教育出版
18. 小学 どうとく こころ つないで 2、共著、2014、教育出版
19. 小学 どうとく 心つないで 3 Heart to Heart、共著、2014、教育出版

20. 小学 どうとく 心つないで 4 Heart to Heart、共著、2014、教育出版
21. 小学 どうとく 心つないで 5 Heart to Heart、共著、2014、教育出版
22. 小学 道徳 心つないで 6 Heart to Heart、共著、2011、教育出版
23. しょうがく どうとく こころ つないで 教師用指導書 指導編、共著、2014、教育出版

## 6 その他論文

1. 近代子ども観の成立、単著、1988、ぶんぶん通信1号 子どもと子どもの本の世界、上蘭研究室
2. 赤ずきんの教訓、単著、1988、ぶんぶん通信2・3号 子どもと子どもの本の世界、上蘭研究室
3. 山羊たちのメッセージ、単著、1988、ぶんぶん通信4・5号 子どもと子どもの本の世界、上蘭研究室
4. 子どもの平和、単著、1988、ぶんぶん通信第2期1号 子どもと子どもの本の世界、上蘭研究室
5. 紀耀介の本棚第1回、1995、ぶんぶん通信第2期 No.24 子どもと子どもの本の世界、上蘭研究室
6. 紀耀介の本棚第2回、1995、ぶんぶん通信第2期 No.25 子どもと子どもの本の世界、上蘭研究室
7. 書評、小寺正一、藤永芳純／道徳教育を学ぶ人のために、1997、道徳教育 No.459、'97、6、明治図書、86
8. 教職研修総合特集「実践に学ぶ」特色ある学校づくり |心の教育| 編、共著、1999、教育開発研究所、209-210
9. 新小学校教育課程講座〈道徳〉、共著、1999、ぎょうせい、107-108 & 136-138
10. 長崎大学生涯学習公開シンポジウム「講座や授業の評価を考える」授業評価について、単著、2004、長崎大学生涯学習叢書3、長崎大学公開講座と評価、長崎大学、2-6
11. シンポジウム「道徳性を創る—生命尊重について—」、共著、2005、道徳教育方法研究第12号、127-150
12. 緊急特集「『いじめで自殺』報道を受けて／現場への提言」教育を考えよう、単著、2006、「道徳教育改革集団」機関誌別冊道徳教育改革第1期別冊（通算No.37）、27-32
13. 書評、増渕幸男著、『「いのちの尊厳」教育とヒューマンイズムの精神 生命科学との対話の道を探る』、単著、2010、教育学研究第78巻3号、286-287
14. グローバリゼーション、平和責任、そして道徳教育、単著、2011、道徳教育方法研究第16号、84-86
15. 疑似科学とのつきあいかた 第1回、共著、2013、Educo No.30/2013年冬号、19、教育出版
16. 疑似科学とのつきあいかた 第2回、共著、2013、Educo No.31/2013年春号、15、教育出版
17. 疑似科学とのつきあいかた 第3回、共著、2013、Educo No.32/2013年秋号、15、教育出版
18. 疑似科学とのつきあいかた 第4回、共著、2013、Educo No.33/2014年冬号、19、教育出版
19. チャレンジ道徳授業、単著、2014、道徳のチカラ第9号 「道徳のチカラ」機関紙第2期（通算No.60）、88-104